

開館5周年記念
5th Anniversary Exhibition

日比野克彦 KATSUSHIKO HIBINO ひとり橋の上に



立てから だれかと舟で 繰り出すまで Alone on the Bridge Together on a Boat

八戸市美術館
HACHINOHE ART MUSEUM
2026年4月18日(土) - 9月23日(水・祝)
April 18 (Sat.) - September 23 (Wed.), 2026

開場時間 10時 - 19時 (最終入場 18時30分) 休館日 火曜日 (5月5日、8月4日、8月11日は開館)、5月7日、8月5日、8月12日
主催 八戸市美術館、後援 八戸市教育委員会、青森放送、青森朝日放送、青森テレビ、八戸テレビ、デリー東北新聞社、東奥日報社、エフエム青森、コミュニティラジオ局BEM
企画協力 水戸芸術館現代美術センター、協力 岐阜新聞社、スパイラル / 株式会社
ワールアートセンター、東京藝術大学、株式会社Balen、ヒノスハシャル、ミキハウス

八戸市美術館
Hachinohe Art Museum

日比野克彦 KATSUSHIKO HIBINO



未知の土地を
「開墾」するように、
「開梱」しながら、
作品との出会いを
楽しむプロジェクト

KAIKON KAIKON

プロジェクト PROJECT

活動場所=八戸市美術館
ジャイアントルーム
活動期間=2026年2月22日(日)
-9月23日(水・祝)
HACHINOHE
ART MUSEUM
Giant Room
February 22 (Sun.)
-September 23 (Wed.),
2026

八戸市美術館
Hachinohe Art Museum

ひとり橋の上から、だれかと舟で繰り出すまで

KAIKON

プロジェクト

KAIKON PROJECT



KAIKONプロジェクト

岐阜にある日比野の倉庫で長らく眠っていた作品たちが、八戸市美術館にやってきます。それらをプロジェクトメンバー（アートファーマー）と一緒に開けながら、作品と出会ったドキドキやワクワクを、さまざまな人たちと分かち合います。作品の情報や作品と出会った時の気持ちは「KAIKON史」として記録されています。開梱された作品とともに展示されます。

① 開幕

プロジェクトの幕開けとして、日比野とともに作品を開梱します。
日時 | 4月19日(日) 10:30-12:00

② 大開梱

日比野の倉庫で長らく眠っていた大型作品を開梱します。
日時 | 7月25日(土) 13:00-16:00
※①、②はアートファーマー（募集終了）が参加するイベントですが、一般の方も申込不要でご覧いただけます。

③ 収穫祭

これまで開梱した作品をアートファーマーが紹介します。
日時 | 9月23日(水・祝) 14:00-16:00
参加費 | 無料(申込不要)
※どなたでもご参加いただけます。

日比野克彦

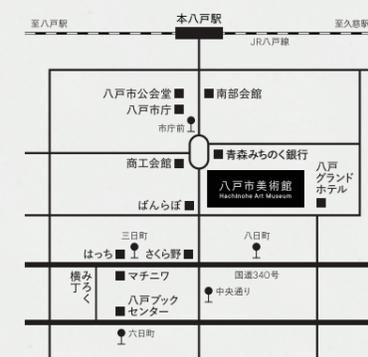
1958年岐阜市生まれ。東京藝術大学に在学していた80年代前半より作家活動を開始し、社会メディアとアート活動を融合する表現領域の拡大に大きな注目が集まる。その後は、国内外で個展・グループ展、領域を横断する多彩な活動を展開。また地域の場の特性を生かしたワークショップ、アートプロジェクトを継続的に発信。現在、東京藝術大学長、岐阜県美術館館長、熊本市現代美術館館長、日本サッカー協会参与、2017年から現在まで、八戸市美術館の運営検討委員会会長を務める。

観覧料 | 一般1000円(800円)、大学・専門学校生500円(400円)、高校生以下無料
()内は20名以上の団体料金/有料駐車場ご利用の運転手1名につき団体料金適用/八戸市内および近隣町村(三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村、おいらせ町)在住の65歳以上の方は半額/障害者手帳をお持ちの方とその付添者1名は半額
無料観覧デー | 5月1日(金)

フリーパス「かおパス」(本展に限り何度でも観覧可)
一般1500円、大学生・専門学校生750円
※各種割引との重複使用不可

アクセス

電車 | 東北新幹線「八戸駅」
→JR八戸線「本八戸」駅下車→徒歩約10分
バス | 東北新幹線「八戸駅」東口1番乗り場(中心街方面)→中心街ターミナル(中央通りまたは八日町)下車→徒歩2分
※一般駐車場はございません(障がい者用2台あり)
八戸市美術館
〒031-0031 青森県八戸市大字番町10-4
Tel | 0178-45-8338 Fax | 0178-24-4531



八戸市ふるさと寄附金を当館の事業に活用しております。詳細は、八戸市美術館HPをご覧ください。

展覧会関連イベント

① ライブペインティング

日比野が大きな幕にライブペインティングを行います。
日時 | 4月18日(土) 13:00-16:00
観覧料 | 無料(申込不要)

② 日比野克彦×榎木野衣トーク

さまざまな「はざま」に橋を架けてきた日比野の表現活動について語ります。
日時 | 4月19日(日) 14:00-15:30
出演 | 日比野克彦(本展出展作家)、榎木野衣(美術評論家)
参加費 | 無料(定員80名、要申込、先着順)

③ 日比野克彦×萩原朔美×榎本了壺トーク

寺山修司主宰の劇団「天井桟敷」で出会い、70~80年代の若者文化に影響を与えた雑誌「ピクリハウス」を創刊した萩原朔美と榎本了壺をゲストに迎え、日比野の活動の原点に迫ります。
日時 | 7月26日(日) 14:00-16:00
出演 | 日比野克彦、萩原朔美(演出家、映像作家)、榎本了壺(クリエイティブ・ディレクター)
参加費 | 無料(定員80名、要申込、先着順)

④ ギャラリートーク

担当学芸員とともに展覧会を巡ります。
日時 | ①5月17日(日) ②6月21日(日)[手話通訳あり] ③8月23日(日)[英語通訳あり]
各日14:00-15:00
参加費 | 無料(要展覧会チケット、申込不要)

申込
八戸市美術館HPよりお申込みください。

グラフィックデザイン | LABORATORIES
会場構成 | 佐藤慎也
担当学芸員 | 高橋麻衣、平井真里

表紙: 日比野克彦「私が初めて立ち止まったのは萱場の橋の上でした」(2002) 撮影: 加藤健
写真提供: 水戸芸術館現代美術センター

同時開催

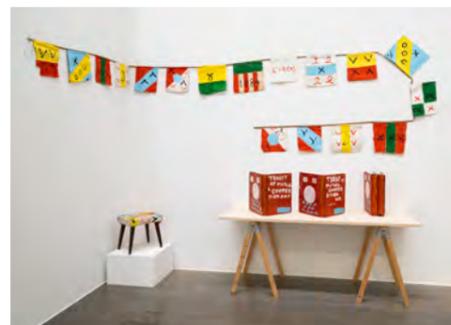
① コレクションラボ013
ここにある理由 新収蔵作品展
日時 | 3月28日(土)~7月20日(月・祝)

② コレクションラボ014
岡山良一 八戸モダンの風
日時 | 7月25日(土)~11月16日(月)

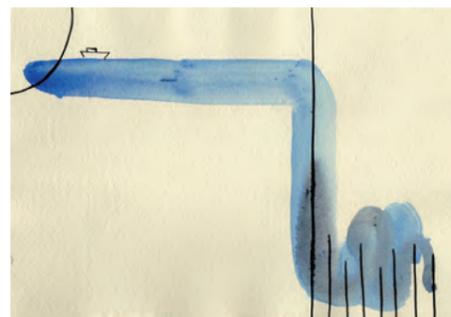
日比野克彦は幼い頃、予期せず一人ぼっちになった時、橋の上で初めて「ひとり」を実感したと言います。そして、絵を描くのは「だれかと」会いたい、コミュニケーションしたいからだと言います。本展は「ひとり」から「だれかと」へ、つながりを求めていく日比野による活動の変遷を生い立ちから現在まで辿ります。

1980年代前半、東京藝術大学大学院美術研究科修士課程デザイン専攻に在籍していた日比野は、ダンボールを素材にした作品でイラストレーションの概念を拡張し、立て続けに公募展の大賞を受賞して一躍時代の寵児となりました。しかし、日比野の活動を俯瞰する時、80年代はアーティストとしてのキャリアの一段階にすぎません。90年代には自らと向き合い、形のないものの表現を模索し、2000年代には関係性を探求するアートプロジェクトへと大きく舵を切りました。2010年代以降は美術館の館長、2020年代はさらに大学長という役割を担いながら、美術を福祉、医療などと掛け合わせ、時に行政や企業とも連携して社会に結びつける実践を精力的に行っています。本展はそれらすべてをアーティスト日比野による芸術実践と捉える観点から編まれたものです。

本展ではいくつかのフィールドを横断しながら縦横無尽に活躍する日比野を、アーティストとして形成された過程を起点に、関わる人びとの視点を通して深掘りし、絵本や漫画を取り入れてエピソードを織り交ぜながら紹介します。手つきや振る舞い、姿勢に着目することで、必ずしも形や物として残らない2000年代以降の活動も含め、日比野の拡張してやまない芸術実践に通底するものを探ります。



ロックミュージカル「時代はサーカスの象ののって84」小道具 (1984)
撮影: 加藤健 写真提供: 水戸芸術館現代美術センター



「わたしはちぎゅうのこだま」(2020)より
写真提供: HIBINO SPECIAL



《忠節橋》(2002) 撮影: 加藤健 写真提供: 水戸芸術館現代美術センター



「消える時間」《うごき》(1993) 撮影: 富岡誠



《オートバイ》(1984) 撮影: 加藤健
写真提供: 水戸芸術館現代美術センター



「明後日新聞社文化事業部」(2003-) 2003年の様子
写真提供: HIBINO SPECIAL

Alone on the Bridge

Together on a Boat

日比野克彦

KATSUHIKO HIBINO

2026

4/18 sat. 9/23 wed.